

学校外の人材を活用したキャリア教育実践モデル

学年 1 教科・領域 生活 単元・題材等 動物と友達（動物ふれあい教室）

単元・題材等の目標 動物に関心を持ち、大切に扱うことができる。動物にじかに触れたり世話をしたりしながら、動物も自分たちと同じように命をもっていることに気付く。

○活用できる学校外の人材と内容等

動物の飼育に詳しい人、獣医
*来校してもらい、飼育している動物の世話のしかた、生命の大切さなどを実習を交えて話してもらおう。

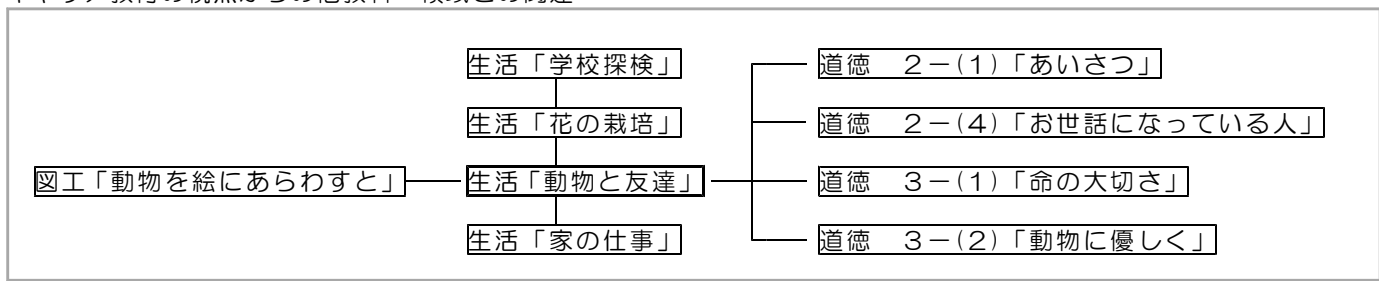
○キャリア教育の視点から本単元・題材等で育成することが期待される能力・態度

*太字は、学校外の人材活用により育成が期待できる能力・態度

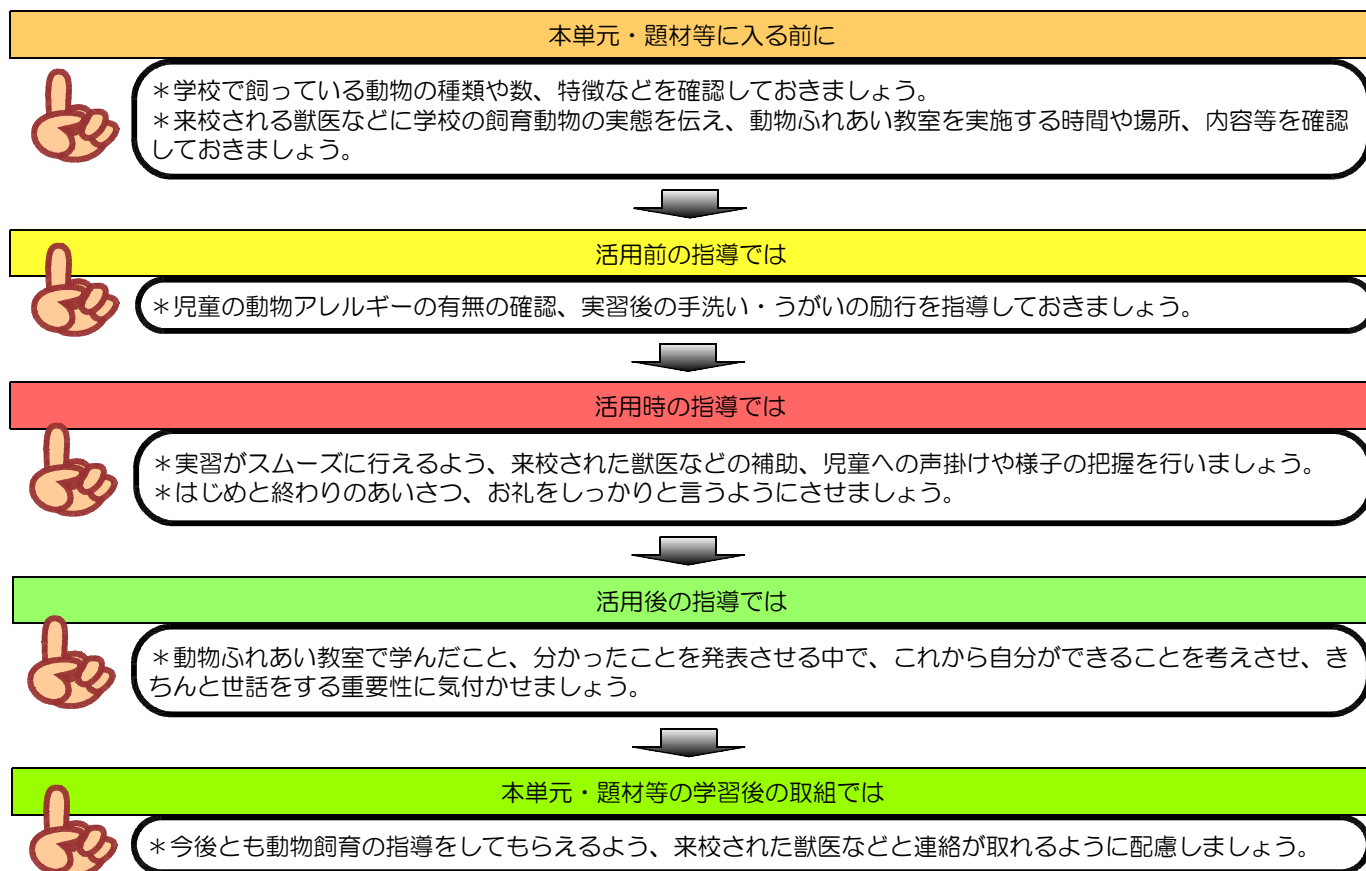
b>

- 動物のことを教えてくれた人に感謝する。【**自他の理解能力**】
- 動物のことを教えてくれた人にあいさつや返事をし、感想やお礼を言う。【**コミュニケーション能力**】
- 獣医の仕事に興味・関心をもつ。【**情報収集・探索能力**】
- 動物の世話に取り組み、その大切さが分かる。【**職業理解能力**】
- 動物の世話をすることや自分の役割の必要性が分かる。【**役割把握・認識能力**】
- 動物の世話の準備や片付けをする。【**計画実行能力**】

○キャリア教育の視点からの他教科・領域との関連



○学校外の人材を活用するポイント



○学校外の人材を活用する指導の流れ

活用前の指導	
①飼育小屋の動物と遊ぼう ◆飼育小屋の動物とどんなことをして遊ぶか話し合う。 ◆飼育小屋へ行き、動物と遊ぶ。	
学習活動	指導上の配慮事項
●飼育小屋の動物とどんなことをして遊ぶか話し合う。	○動物を見たり、接したりした経験を出し合いながら話し合わせる。
●飼育小屋へ行き、動物と思い思いに遊ぶ。	○動物と遊ぶ上での注意事項を話し合わせてから、遊ばせるようにする。
●動物と遊んだ感想を出し合う。	○動物と遊んで楽しかったことや嬉しかったこととともに、困ったことや動物のことでもっと知りたいことなども挙げさせる。
うさぎは動きが速くて捕まらなかったよ。	○動物の専門家が来校して教えてくれることを知らせ、マナーなどについて指導しておく。
●次時の活動について知る。	

評価の観点 ・次時の活動について知り、どんな人が来校されるかやその際のマナーや注意事項が分かる。

活用時の指導	
②動物ふれあい教室を体験しよう ◆動物ふれあい教室で獣医などの話を聞く。 ◆動物の世話のしかたを知り、生命のある存在であることに気付く。	
学習活動	指導上の配慮事項
●はじめのあいさつをする。 【 コミュニケーション能力 】 今日はよろしくお願いします。	○来校された人の紹介をし、あいさつをさせる。 今日来校してくださったのは獣医さんです。
●動物ふれあい教室に参加する。 【 コミュニケーション能力 】【 情報収集・探索能力 】 うさぎの心臓の動きはとっても速かったよ。 うさぎを初めて抱っこしたよ。	○この場面は、来校された獣医などが主に活動を進めるので、教師はその補助や児童への声掛けなどを行う。 順番にうさぎを抱こうね。 うさぎの心臓の音を聞いたけどどうだった？
●感想を発表し、終わりのあいさつをする。 【 自他の理解能力 】 今日は、楽しかったです。ありがとうございました。	○実習後は手洗い・うがいをさせる。 ○本時の感想を発表させ、お礼のあいさつをさせる。

評価の観点 ・はじめと終わりのあいさつ、お礼などがしっかりとと言える。
・獣医の仕事、動物の世話や飼育に興味・関心をもつ。

活用後の指導	
③動物の世話をしよう ◆飼育小屋へ行き、動物の世話を する 。 ◆遊んだり、世話をしたりして気付いたことを表現する。	
学習活動	指導上の配慮事項
●動物ふれあい教室で分かったこと、思ったことや感じたことを発表する。 【 職業理解能力 】 【 役割把握・認識能力 】 動物のことを考えて優しくしたいと思います。	○動物ふれあい教室での実習や話を思い起こさせ、動物にも命があること、命を大切にすること、そのためにきちんと世話をすることが必要であることに気付かせていく。
●飼育小屋へ行き、動物の世話を する 。 【 計画実行能力 】	○動物が喜ぶような環境を考えて世話をしたり、動物の特徴を踏まえた接し方ができるようにさせる。
●遊んだり、世話をしたりして、感じたことを表現する。 動物にも命があり、きちんと世話をすることが大切だと思いました。	○生き物への親しみが増したことに気付かせるようにし、作文などに表現させる。

評価の観点 ・動物の世話を行う必要性和自分の役割を果たす大切さが分かった上で、動物の世話を行うことができる。